

クオニカル

第 19号
2013年3月1日
自立生活センター三田
通信・発行

☆ 自立生活運動について ☆ ☆ 再び私は私らしく在り続けよう ☆

読み始めた本から歩いてきた私の過ぎし日の場面を思い出している。それはレースのカーテン越しに見る映像のように……

読みながら活字に浮かぶ彼らたちと、微妙に外れたその頃の主婦業に専念していた私の生活に軽い失望と愛惜を覚えるのである。

家事の合間にテレビをつけていた画面をとおして彼らを知り、また一冊の本の中で出会っている。彼や彼女らは遅く、今に続く自立生活運動の標を歴史という途方もない巨大なプレートに、その時すでに挑んでいたのである。

小さな声で子育ても平凡な主婦業も、重度障害の私にとっては挑戦であったと、少し強がりを言おう。いま30年余りの時を得て活字の中で再会した自立生活運動の先駆者たち。

歳月は距離を空けてしまったが、ようやく自立生活運動の末席に辿り着いた私。一冊の活字から伝わってくる活動は途切れる事はなかったし、途切れさせてはならない！遅れて来た私もまた次世代に引き渡す一人になるために在り続けよう。



私は松葉づえから車イス生活になって約16年目を迎えようとしている。最初の介助者との出会いは11年前、院生の学生からだった。それから今日までの介助者はおそらく50人は下らないだろう。

それぞれその時を支えて、時には笑いや怒り喜びの中で私の涙をそっと拭いてくれた。年齢はさまざまな彼女たちであったが、自立生活運動を目出す私と言うよりも障害を持って当たり前で生きようとする私をひたむきに支えなければと頑張ってくれていたのだと思う。私の生活を健気に支えてくれた彼女たちに深い感謝の言葉を伝えると同時に、「当たり前、普通の生き方」を大切にして欲しいと願うのである。

2013年の今年には自立支援法から総合支援法へと変わる。福祉全体の施策も変わろうとしている。介助者と私の生活も影響されないとは言いきれないが、「当たり前で誰もが生きる社会」を求めて、ゆっくりゆっくり介助者と共に毎日を大切にすることを考えている。

吉田さんの介助に入らせてもらって、1年が過ぎようとしています。それまでは、大きな規模のサービスにての勤務でしたので、個人のお宅へ介助に通うというのは、初めての経験です。重度の身体障害のある方が、自宅にてどのように日々を過ごされているのか・・・これは、思った以上にアクティブな生活をされていました。ベッドで寝ておられるのだろうと思っていたら、とんでもない！電動車イスを巧みに操作されながら、ビュンビュンと走っていかれるのです！介助者は、ついていくのも必死。(笑) 雨にもマケズ、風にもマケズ、京都であろうが、神戸であろうが電車を乗り継いで、積極的にセミナー等に参加されるのです。しかも、とってもお洒落で、いつも着ておられるのは、きれいな二部式のお着物。

吉田さんの望まれる生活に合わせて、介助者はいつもドタバタながら、共に生きていくことの大切さを実感している毎日です。宇恵



介護に入って気づいたこと

一年くらい介護のバイトをしてきました。介護のバイトを始めて気づいたことは、生きやすい所や親切な人もいれば、生きにくい所や関心のない人もいる、ということに気づきました。駅に行った時も、とても融通のきく駅では利用者が乗りやすい場所やエレベーターに近い場所に案内していただきます。しかし、関心のない人や駅は、駅員の都合などで乗り降りしにくい場所やエレベーターから程遠い場所に案内されたりします。それらはその人の人間性であったり、関係しているのだと感じました。みんながみんな親切にした方がいいとは思いませんが、それぞれがそれなりに障害者に対して関心を持つことで、少しでも社会が地域が変われば良いと思います。そういう点で約一年間、いろいろと社会について考えさせられたと感じました。

モグちゃん

★気付いたこと

私は今までショッピングモールなどにあるエレベーターの鏡を、身だしなみを整えるために何気なく使っていたが、あの鏡は車椅子を利用の方が後ろを確認しやすいようにするためのものであるということを知らなかった。

リッチ





私は去年の6月10日から自立センター三田で働かせてもらい始め、たくさんの新しい経験や普段と違った視点で物事を考えられるようになりました。

これまで障害者の生活を知らなかったので介助に入っただけで何をするにも時間がかかることを知りました。着替えや食事や外出にしても私が普段、難なくこなしていることが 困難でありどれほど大事なことが実感しました。同じ人間なので皆と同じ生活をすべきであり障害者だからといって避けられたり、やりたいことができない生活を送る必要はないです。身体の不自由な人が過ごしやすい社会になってほしいです。今年の目標は料理をすることです。介助に入っただけでいつもおいしそうな料理を作っている介助員さんを見て憧れたので今年の目標にしました。また、自立生活を支援する側として私も自立しなければという思いが強くなり、まずは自分で料理ができないといけないと思いました。料理をしていく上で食生活を見直していきたいです。

みぽりん

★ 気づいた事 ☆
障害がある事によってできる事が限られひとつひとつの取り組みが困難であり時間がかかってしまう事と伝える事の難しさ。

★ 目標 ☆
介助するにあたり利用者の方が安心感を持ちまかせられる介助者になれるよう日々学びその人の立場におきかえて考える。 ゆーちゃん

★みんなが介助に入って、これまで何も意識しないでやってきた事が、車イスや障害があると、考えないと出来なかつたり、困ったりする事が色々あるのに気付いたと思います。その事について。車イスが走行している時に、いかに車イスが楽に進めるかを考えながらも、人との衝突を避ける事。

★今年の目標。私の介助でなくてもいいので、関係があるような内容。

休まずに出勤し続ける事！ 他人様に迷惑かけない事！

ありりん



始め「ご飯作ってもらおうかな」と言われた時は、主婦歴25年程の私は、炊事・掃除・洗濯だったら大丈夫！と思ったのですが、次の瞬間！「ご飯？」家族に自分の好み満載で作るのと違うなあと、全然大丈夫じゃない事に気がつきました。どうすれば吉田さんの好みの味付けに出来るだろうかと考え。なるべく細かく具体的に、味付けはもちろん、材料の切る形や大きさ迄聞き、作るようにしました。吉田さんも、面倒がらずに細かく指示してくださり、なんとか食べて頂ける物が作れるようになった気がします。

衣食住で、食は一番大事だと思うので、これからも美味しいと思って頂ける食事を作りたいと思います。くみ

まず始めに車イスで電車に乗ろうとする時、スロープがあるだけでは乗れないという事。乗る駅と降りる駅の駅員さん同士が連絡を取り合ってから乗車になるのでとても手間がかかってすぐ次の乗りたい電車に乗れないのは健常者にはないことで、つらいことだと思いました。

バスに車イスで乗ろうとする時、ノンステップバスが時間によって全くない時、移動する事も帰る事もできません。健常者には乗れないバスなんてないので、誰でもいつでも乗れるノンステップバスをもっと普及して増えて欲しいと思いました。まだまだ今は障害者に対応した環境が整っていないと思うので健常者だけでなく障害者、誰もが過ごしやすい環境になるよう、1人ひとりが考えていかなければならないと思いました。

あさちゃん



吉田さんといろんなところへお出掛けにいきますが、少しの段差でも車椅子にとっては大きな段差であったり、スロープのないところや、狭いエレベーター、整備されていない道などではとても困るときがあります。このような環境は車椅子の方だけでなく、けがをした方や高齢者の方、子供達にとっても危険な場所となります。障がい者の方にとって住みやすい街はみんなにとっても住みやすい街である、という言葉聞いたときに、本当にその通りだなあと思いました。この考え方が広まれば、街も変わっていくのではないかと思いました。みきちゃん

新人さん紹介

こんにちは。ニックネーム“あーちゃん”です。

今年1月からお世話になってます。8月がきたら49才になります。

娘夫婦と孫2人と一緒に暮らしています。性格は気が小さく、おっとり...

ですがあわてんぼです。心がけていることは、思いやりの心と謙虚さです

が、本当の思いやりや謙虚さはきっと一生かけてもわからないかも知れませんし、学び続ける事なのかも知れません。吉田さんのところへご縁があり、嬉しく思っています。まだまだ始まったばかりで失敗も多く、ご迷惑をおかけすると思いますが少しでも早く成長できるよう努力してがんばっていきたいです。

介護の仕事は14年目ですが、年数だけで中身が空っぽで日々反省する事ばかりです。

今回在宅は初めてで、吉田さんのところで今まで学べなかった事、身につかなかった事を学び、実らせて頂けたらありがたいです。どうぞよろしくお願ひします。あーちゃん



◎ 車イスの介助に入るようになって、エレベーターやスロープ、身体障害者用の駐車スペース、トイレ等、普段目にしていたものの見方が大きく変わり今更ながら『バリアフリー』を実感しています。電車やバスに乗る時の手順、ベッド移乗や食事の介助など、沢山の初めてがいっぱいです。不器用ながらも何とかこなしています。今まではただそこに『設置されたモノ』だったのが、今、利用する側に立って改めてその重要性を感じています。公共施設等を利用する時も『ココは設置されてたんだ』から『ココには設置されてるんだ』と意識して見るようになりました。

利用する側になってでしか実感できないこともあります。設置されていることに対して“何故か”を考えるだけでその見方は変わるものだと学びました。そうであって当たり前のバリアフリーですが、まだまだ実地できていない所も多々あります。そんな場所を見ると不安を抱くようになりました。文字の『バリアフリー』ではなく言葉としての『バリアフリー』に気づく事が出来ました。

アピール文↓↓

◎ 新人の梶原理恵です。色々ありまして現在、社会人を経て保育士になるため再び学生をしています。学校で同じようなバイト(障害者さんの日常をサポート)をしている友達から、仕事の話聞いて興味を持ったことが切っ掛けです。

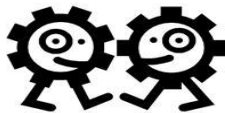
ド素人なんで毎度アワアワしながらお仕事させて頂いてます。本当、皆さんには迷惑かけっぱなしで...

一緒に働く人達や吉田さんは本当に優しく、職場環境はとても良いです。ココで働かせて頂くようになってから、視野が広がったのを実感します。年を重ねるにつれ、人と出会う機会が少なくなって来ました。しかし、学校やこの仕事に足を踏み出した事で、昨年は、本当に素敵な出会いがありました。

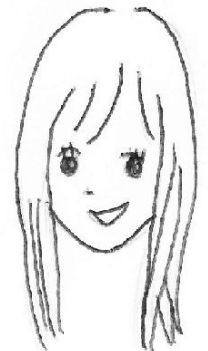
今年も積極的に色んな人と素敵な出会いをしていきたいです！

どうぞよろしくお願ひします。

カジさん



こんにちは！大学の先輩の紹介で12月から働かせていただいています、ふみちゃんです(^)最初、私は特に介助というお仕事をしたい！というわけではなく先輩が紹介してくださらなかったら、きっと一生経験することはなかったのではないのかなと思っています。しかし、いざ働いてみると教えられたことをその通りにやっていくような他のアルバイトとは違い、吉田さんの体調、そのときの天気や気温などで違ってきてこれが人と人がとてするお仕事なのだなあと感じました。私は、以前まで障害者というのは生活が毎日が苦しいのではないかと思っていました。しかし、実際は全く違いました自分でできることはする、普通の人達とほとんど変わらない生活を送っているし、毎日笑顔で過ごしています。私はこのお仕事を通して多くのことを知りました。まだまだ未熟ですが、これからもどんどん頑張っていきたいです！



東北関東大震災 障害者救援本部に

支援募金をぜひよろしくお願い致します。口座名：東北関東大震災障害者救援プロジェクト

郵便振替の場合は：00140-7-429771

銀行振込の場合は

：ゆうちょ銀行 ○一九（ゼロイチウ）店 当座 0429771

東北関東大震災障害者救援本部のサイトです↓

<http://shinsai-syougaisya.blogspot.com/>

カンパはゆめ風基金でも受け付けています。

<http://homepage3.nifty.com/yumekaze/>

お知らせ

「逃げ遅れる人々 東本大震災と障害者」の上映会を予定しています。

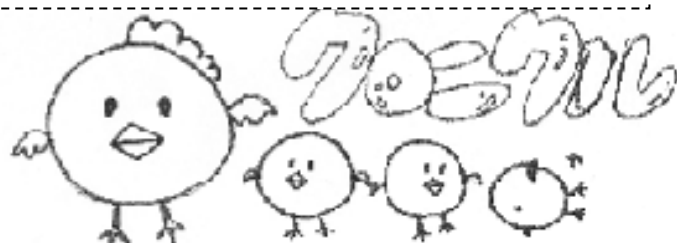
編集後記

2年ぶりに「クロニクル通信」を読んでいただけるようになりました。

その間にスタッフたちとの別れと出会いがありました。最近の嬉しいニュースとしては、最初のクロニクル発行の編集長をしてくれた彼女の、華麗な花嫁姿を見る事ができた事です。通信が途絶えがちになったのは彼女が巣立ったことによると言っても過言ではありません。

クロニクル通信も2005年創刊号から早くも8年が立ちました。介助者と共に暮らす私の生活に変わりはありません。振り返りの気持ちもあって、今回は現在のみんなに「介助に入って」を書いてもらいました。

よしだ



♪介助スタッフ募集

障害を持つ方の生活を支えるやりがいのあるお仕事です。

資格・経験のない方でも相談に応じます。

時間 ①10:30～19:00 ②19:00～8:30(短時間でも、相談に応じます。)

♪ボランティアさん募集

家でのお手伝いや、クロニクルの活動に参加してみませんか？

経験や資格など問いませんので、興味をもたれた方は、ご連絡下さい。

2013年3月1日発行

自立生活センター 三田

三田市駅前2番1号 三田市まちづくり協働センター6階気付

☎079-567-1708